

Working mother

ワーキングマザー



高齢者に 気づかせてもらった 介護と子育ての 共通点

門田 温子さん

- 家族構成: 夫、子ども二人(6歳・2歳)の4人家族
- 子どもの預け先: 認定こども園
- 仕事: 社会福祉法人 道真会
住宅介護支援事業所 幸富久荘
- 職種: 介護支援専門員(ケアマネジャー)
- 勤務時間: 8:30~17:10
- 勤務歴: 8年

タイムスケジュール

- 06:00 起床 自分の支度、お弁当作り(夫と自分)
- 07:00 子ども起床、朝食、子ども支度
- 08:00 園見送り(母担当)
- 08:30 出勤
- 17:30 園お迎え(母担当)
- 18:00 夫婦ほぼ同時帰宅(残業時は延長保育利用)
- 18:30 入浴(食事を作らない方が子どもと一緒に入浴)
- 19:30 夕食
- 20:00 遊び(家事をしていない方が絵本の読み聞かせなど)
- 21:00 子ども就寝
- 22:00 夫婦就寝



三世帯8人家族で培った価値観がベースに

4人兄弟に両親と祖父母の8人家族で育ちました。幼児からお年寄りまでが一緒にいるのが当然で、その時に“できる人ができることをする”と支え合いにぎやかに楽しく暮らしていました。ちょうど私が中学生の頃、一緒にいて当たり前だった祖父が病気のため、長い入院生活を送りました。「家に帰りたい」と言いながら亡くなった祖父を思い出すと今でも心が痛みます。その思いもあって私が、高齢者や家族の在宅生活をサポートする仕事を選んだのは自然な流れでした。介護の専門学校を卒業後はグループホームで認知症介護をしていましたが、結婚・出産をした場合に夜勤をすることは難しいと思いました。この先も介護に関わる仕事を続けたいと思い、ケアマネジャーの資格を取得しました。

周囲のサポートで乗り越えたこどもの預け先問題

第一子の育児休業後、職場復帰のために子どもの預け先を探す「保活」にとっても苦労しました。一人目の時は、実家に協力してもらいながらなんとか保育園が空くまでつなぎましたが、二人目もまさかの待機児童に。実家と職場と保育園をぐるぐる回る生活に家族全員疲れ果て、兄弟を別々の園に通わせました。その後、市に空き状況などもその都度掛け合い、何とか6か月後に同じ園に入ることができました。夫や、日中孫をみてくれる実家の両親の支えで、2度目の職場復帰を果たすことができました。普段は、家事も育児もお互いの得意なものを分担しています。夫は私より几帳面なので家事は私より得意かもしれませんね。家族団らんの時間では、子どもはよく「忘れたー」と言います。そんな時はテーマを決めてゲーム感覚で話を聞きだしながら気長に付き合うように工夫しています。

思い切ってはじめる!行動して見直し、そして前へ

中学生の頃からの夢だった留学は、就職して6年目に、半年間のニュージーランドへのワーキングホリデーで果たしました。学びも遊びも仕事も存分に楽しみ、ニュージーランドで触れた高齢者福祉の仕事で「やっぱりこの仕事でいこう!」と決意をもって、ケアマネジャーの試験に挑みました。ケアマネジャーの仕事は高齢者の人生の終盤に寄り添う仕事です。いろいろな家族と出会い、人生観に触れます。高齢者に気づかせてもらった介護と子育ての共通点は、「家族の気持ちさえ離れなければ大丈夫」ということです。子どもにかけた愛情は将来返ってくることも感じました。私は興味があわくと気づいたら行動しているタイプようです。まず行動して困ったことが起きると周囲にいい方法を教えてもらったり、サポートしてもらったり、頼っています。休日は夫婦それぞれが一人じかんを作るようにしています。ゆっくり過ごせる時間は、仕事と子育てを両立するために必要な時間で、前に進む原動力になっています。

NPO法人ワークライフ・コラボの

シゴト×ライフスタイル

★ポイントはここ★

介護という業種の中でも動く人の役割によって立場や待遇は様々です。幼いころから夢をもって志した職業だからこそ、資格取得で職域を広げることも働き続けるための工夫(手段)の一つです。周囲に理解やサポートを求めろ力、問題を解決し次のステップにつながるかもしれませんね。



今回の取材担当

一色 淑恵

ブリキア好きなら5歳と2歳の娘の母。仕事は在宅とフレックスタイム制を使い、幼稚園のサークルや趣味の三味線も楽しんでいます。

イベント・各種情報アップしています!

【FB】▶ <http://www.facebook.com/worcolla>

【HP】▶ 「ワークライフ・コラボ」で検索